

～戴帽式を終えて～

第89回生 山崎 羽菜

始めは何のために戴帽式をするのか、することで何を得ることができるのか、など必要性をあまり感じていませんでした。しかし、戴帽式を実際にして、看護師に求められるものは何か、大切にしなければならないことは何かなど式を通して改めて考えることができ、少し成長したように感じました。また、ようやく看護師の夢へのスタートラインに立つことができたように感じ、とても嬉しく、その反面不安も生まれました。

戴帽式をする前は本当に自分が看護師になれるのか実感がわかず、決して簡単に踏み入れてはならない、時には自分の行動で命を奪ってしまうかもしれない、そんな責任がある仕事に自分が就いて良いのか、など様々な思いもありました。しかしナースキャップを受け取ったときや校長先生に祝福の言葉を頂いたとき看護師としての使命を任されたように感じ、こ

れから今まで以上に責任感と自覚を持って取り組んでいかなければならないと強く思いました。先生や医療関係の方々、講師の先生、先輩方など様々な方に祝福していただき、こんなにも私たちの成長を応援、期待してくださる人がいることに驚き、とても嬉しく思いました。これから思い悩んだり、辛いこともあるかもしれないけれど、どんな困難に直面しても様々な方々によって見守られ、支えられていることを胸に頑張っていこうと思います。

さらに、一緒に戴帽式を迎えた仲間と共に、これからの実習や勉強に立ち向かって乗り越え、相談や協力をしながら39人全員で看護師になれるように日々努力していこうと思いました。ナイチンゲール誓詞にある「わが手に託されたる人々の幸のために身を捧げん。」のように身体・精神共にサポートし温かさや優しさを持った「あなたがいてくれてよかった」と思ってもらえるような看護師を目指すために知識・技術・態度をしっかりとし身に付け、常に向上心を持って取り組みたいと思います。

